

2025 年度 学校法人 三幸学園 仙台ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤森 淳子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高清水 久実

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン、組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

退学率が低減したことにより、教務において良い結果を残せたように感じるが、本来の社会人になるための育成が適切にできていたかの観点では、学生への社会人として必要な挨拶や敬語、ルールやマナーを守る、時間管理等の指導が徹底できていなかったため、今後、全教職員の教務の取り組み方について再度検討が必要とされる。

また、学年制から単位制となってから、卒業延期者の数も増加傾向にある。この点においても、遅刻・欠席をせずに登校する意味、授業を受ける重要性等を学生に身に付けさせて、2年間で卒業をするといった指導をしなければいけない。

美容専門学校に入学し、出口となる就職においても、在籍中に就職内定先を決定せずに卒業をしていく学生が例年数名いる現状のため、美容業界に対する目標喪失とならない指導、美容業界の魅力を伝えるための特別授業の導入等の対応を継続的に行っていくことが必要である。

また、引き続き、ビューティー分野では新しいICT教育の導入が進んでいくため、教職員全員のICTへの関心を高めることと、多様化する社会、教育、学生の資質を受け入れに向けて、学校として理解を深めた上で対応していく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

・退学率が低減した要因として何が考えられるのかを教えていただきたい。現代の若者の離職率が増加しているため、企業の新人教育でも工夫を凝らし教育体制を整えてはいるが、新人教育の中でも個別対応を望む職員が多く、自分と向き合って自分自身をわかってもらいたいという職員が年々多くなっている。そのような現代の中で、学校としては教職員が学生とどのように関わっているのかを教えていただきたい。（井上委員）

・退学率が低減した要因としては、教職員の意識が変わり、昔ながらの厳しい指導ではなく、まずは学生の意見に耳を傾けること、日頃の学生の状況をよく観察し、学生の個々にあう教育・指導の仕方を見つけ、対応したことが要因として考えられる。（水谷さん）

- ・学生が変化している中で、教育の変化の対応もされているが、数年前に学年制から単位制になった事で、大きな変化(メリットやデメリット等)はあったのか。(高橋委員)
- ・学年制から単位制になったことで、学生の単位修得の仕方に幅が広がったため、単位不良となり再履修をする場合も、学年制の時は単位不良となった全ての教科を再履修しなければならなかったが、単位不良となった教科のみ再履修すれば、卒業ができ、国家試験が受験できるようになった。しかし、卒業延期者は数人ずつではあるが年々増加傾向にある。そのため、本来の専門学校の修得年限で技能の習得と、人間性を成長させ卒業させることが必要である。(水谷さん)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学園やビューティー分野として定めている理念や目的、人材育成像については学生に伝えることができているが、保護者へ学校の教育目標や指導方針含めた学校としての取り組みについて周知できていない。

また、学生には、入学時や進級時に伝えているだけであって定期的な周知ができていないため、学生が自ら抱く将来構想実現のためにも、継続的な周知が課題である。

② 今後の改善方策

学校の理念・目的・人材育成像を学生と保護者へ周知するために、昨年度は保護者へ向けた周知がオンデマンドでの対応となったが、今後は実際に来校いただき、学校や教員、在校生の状況を見てもらう機会をつくる。

また、専門学校への入学に対する不安を少しでも解消できるよう、入学前のオリエンテーション、保護者説明会を実施し、週に1度のキャリアデザインや就職対策の授業内でも定期的に自分たちが目指す人材育成像の再確認を行っていく。

③ 特記事項

2026年度の入学生、保護者においては、入学前保護者説明会を3月に対面で実施し、学校の教育理念や人材育成像、美容専門学校での教育を伝える時間を作り、また学生指導の要項等も含めた冊子も作成し配布をした。（当日欠席した保護者には郵送にてお渡ししている。）

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保護者との連携について、高校では保護者へ頻繁に電話連絡をしているが、専門学校のイメージとしては、ネガティブな事項(学校生活における生活態度や欠席状況等)に対しての連絡が多いと感じるが、実際はどうか。社会人になるための指導をしていく中で、学生の至らないことを保護者に報告することは必要だが、良いことの報告もしていけると良いのではないかと。（高清水委員）

・自分が在学していた時も、入学時に教育理念や、社会人としての心得を研修で学び、自身の夢を実現させるために学校生活の目標を決め、目標に対しての2年間の過ごし方を明確にしていたが、点ではなく線として意識できるよう、定期的に就職対策やキャリアデザインの授業の中で再確認や振り返りをすると、意識を高めることができ、挑戦することの大切さや夢の幅を広げられるのではないと思う。（石川委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2

① 課題

学校運営に伴う制度等は整備されてきてはいるが、労務上での個々の実務業務の負担の大きさは変わっていない。まずは業務の見直し（不必要な業務の精査）を行うとともに、AI等のシステムの活用を積極的に行う必要がある。また、それに伴う教職員自身のスキルアップも必要である。積極的な教職員向けの研修受講や、外部研修に触れ、ビジネススキルを向上する必要がある。

また、コンプライアンスについては、教職員と学生間だけではなく、教職員同士という面からも再度認識統一が必要となる。

② 今後の改善方策

今までのやり方、対応の仕方が定着しているため、学園全体に提供される各研修の受講促しや、ビジネススキル研修、また多様化される教育に携わるためのスキルアップ研修の導入をする。

コンプライアンスについても、定例会議等で定期的に教職員の認識を統一する時間をとっていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・共立メンテナンスでは、社員向けに資料作成の仕方やメールの送り方などの研修を行っているが、AIの導入により社員がAIツールを使用するようになってきているため、業務や資料の精度が高くなってきている。しかしその反面、自分らしさ（自身としての言葉）は無く、社員のアウトプットが難しくなっているように思われる。

また、AIを使用する場合は、セキュリティ面や使用範囲の対策を社内で構築する必要がある。（高橋委員）

・教職員のICTに対する苦手意識が強いため、現代の教育に必要とされるICTの意識、認識を強く持たなければならぬことを伝え、また自ら主体的に活用するような仕組みづくりが必要である。（水谷さん）

・自社では、コンプライアンス対応に伴う業務負荷が増加しており、対応に時間を要することが現状の課題となっている。業務効率を維持しながら、適切なコンプライアンス対応を実施できる体制の整備が求められるのではない。（高橋委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	2
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

① 課題

教職員の教務力向上ならびに、技術指導のための技術力、指導力向上が必要である。

社会や学生が多様化している中で、教職員が対応しきれていない。現代の学生が置かれている状況を把握し、今までの教育とは違う指導（個別最適化・目的、根拠の重視・タイムパフォーマンス、コストパフォーマンス重視）をすることが必要。現代ではあたりまえとされる ICT 教育（デジタルテキスト・VR 授業等）がさらに加速化するが、現状での教職員の ICT の関心は低い状況である。

② 今後の改善方策

全教職員において、全体会議等で専門分野と教育に関わる研修を行い、教職員のマネジメントを行っていく。また、ICT 活用により、生産性の向上および、業務効率化が図られた事例を共有し活用意識向上を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現代の学生対応は、個別最適化やタイムパフォーマンス・コストパフォーマンスのバランスを取る必要がある。情報が多く、選択肢が多様化していることから、画一的な対応ではなく、一人ひとりの状況やニーズに応じた個別最適な対応の重要性が高まっているのではないか。（高清水委員）
- ・自分自身学校を卒業し、社会人になってから挨拶・礼儀といった基本の大切さに気付いた。就職対策やビジネスマナーの授業で、ルールやマナーを守ること、言葉遣いや人への対応の仕方の大切さの説明はあったが、実際にサロン勤務をしている卒業生からの講話など、実体験を踏まえた話が聞けると、より実感するのではないかとと思う。（石川委員）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	2
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

退学率については低減できたが、その反面、2年間で卒業までに必要な単位を修得することができず、卒業延期となる学生が例年よりも増える結果となった。また、就職率に関しても例年よりも低い就職決定率となり、学生への計画的な就職活動を意識する指導を全体的に促すことができなかった。

また、卒業生の活躍の把握については、一部の卒業生においては、本校での特別授業や行事等への協力をいただき関わりを持っている卒業生もいるが、引き続き、幅広い卒業生の活躍を在校生が知り得る工夫が必要である。

② 今後の改善方策

現代の教育の多様化に伴い、退学率低減のために個別最適化の教育が必要となるため、まず学生ひとりひとりをきちんと把握し、教職員間での学生共有を密に行い、学生の情報を得た上で、その学生にあった指導を行っていく。（入学前アンケート、各行事のヒアリングアンケート等の共有）

卒業生との関わりにおいては、教職員でのサロン訪問の機会を作り、企業様のみならず卒業生との関わりを作るためにサロン訪問を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ガモウと取り引きをしているサロン様で、貴校の卒業生が活躍されているという話があれば、キャッチアップして共有していきたい。自社が美容業界を把握している企業として、今年度貴校の就職率が低減した要因は何かをお聞きたい。（井上委員）
- ・学生への就職に対する統一した動機付けや指導は例年通り1年次より行っていたが、動機付けの仕方が弱かったのか、あるいは学生自身の就職に対する危機感が薄かったのか、就職活動の動き出しが遅い学生が増えたように思われる。学校としては再度就職指導の仕方を検討すると共に、個別最適化を考え対応することも必要と思われる。（水谷さん）
- ・自社で調査している就職意思アンケートでは、美容師とアイリストを希望している学生が多い。今回の就職率から、もし職種やサロンの決め方や企業の探し方が分からない場合は、指導の仕方が変わってくるのではないかと。（井上委員）
- ・高校分野でも卒業生に向けてアンケート実施しているが、回答率が低い事が課題である。そのため、学校側から進学先や企業へヒアリングをする機会が多いため、学生へのアプローチの仕方を考える必要がある。また、卒業

生の状況を把握していると、同窓会参加率等にも繋がる可能性があるため、卒業生との関わりも広がるのではないか。（高清水委員）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	2
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

現代の学生にあった対応・指導・支援が必要とされる中で、教職員と学生の距離が近く、相談しやすい環境でありながらも、ルール・マナーなどの規律を遵守させなければいけない指導の難しさが課題となっている。学生を目指す人材へ導くためにも、保護者との連携が必要である。

また、卒業生への支援体制と、中途退学者への支援体制はとれている状況ではなく、課題である。

② 今後の改善方策

クラスの変化や、学生の変化を早期発見し、事前指導に注力して対応をする。保護者との連携については、授業見学や行事見学を実施し、学校生活状況を見ていただく機会をつくる。

卒業生への支援体制としては、国家試験不合格者への合格支援を行っているが、再就職における支援体制が取れていないため検討をする。また、中途退学者においては、退学後の状況自体の把握もできていないため、どのような支援体制が取れるのか検討が必要である。

③ 特記事項

スクールカウンセラーとの連携

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生、中途退学者の支援としての学校からの情報提供は、現代ではネットで情報が簡単に取れるので母校に出向く機会は少なくなる、直接の関わりは難しいのではないかと感じる。（高橋委員）
- ・学園全体として卒業生に対する独立支援サポートや、国家試験が不合格だった卒業生に対しての指導サポート等を行っているが、中途退学者への支援については、退学した学生と連絡を取ることを自体をしていない。退学後の進路の確認等、何か対応できることを検討する。（藤森副校長）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

防火対策においては、管理会社による定期点検の実施を行い、日常の設備の安全管理は整備できているが、教職員・学生の定期的な避難訓練の実施が必要である。

学外実習・インターンシップにおいての体制は整っているが、学生数が増えているため、受け入れ可能な企業様の確保が必要となる。また、実際に実習・勤務をした際に、理想とのギャップを感じ、美容業界への目標喪失を生むきっかけとなる可能性があるため、日頃の就職指導・社会人指導が重要になる。

② 今後の改善方策

全教職員・学生へ、各災害における避難訓練を定期的 to 実施する。校舎が2つに分かれているため、災害があった際に全教職員・学生が同じ認識のもと避難ができるよう、学校設備の認識を含め定期的な訓練を行う。

学外実習・インターンシップ先においては、学校が企業との繋がりを広げるために、積極的に企業訪問・サロン訪問を実施する。新規開拓のために教職員自ら美容業界の現状を学び、学生に斡旋する対応が必要。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・在学時は、避難訓練の実施により、学校からの避難経路について理解を深めることができた。一方で、大規模な災害が発生した際には、公共交通機関の運休や遅延により帰宅が困難となる学生が発生する可能性がある。そのため、避難経路の確認だけでなく、帰宅困難者となった場合の行動指針や、学校が提供できる支援内容（校内待機の可否、連絡方法、備蓄品の活用、保護者への連絡体制など）についても、ホームルーム等を活用して事前に周知することが必要ではないか。平時から情報共有を行うことで、災害発生時の学生の不安軽減と安全確保につながるのではないかと。（石川委員）
- ・火災や地震などの避難訓練では、災害時の「安全」を確保するための行動を伝えることも重要だが、加えて、学校のサポート体制を周知することで、学生に「安心」を感じてもらうことも必要と感じる。（高清水委員）
- ・災害発生時や帰宅困難となった場合には、共立メンテナンスと学校が連携し、学生への支援やサポートを行える体制を整えていくことが可能である。（高橋委員）
- ・企業研究や特別授業、インターンシップの機会をさらに充実させる必要があり、そのため、ガモウと学校が協力・連携し、学生に多様な学びや実践の場を提供できる体制づくりを進めることが可能である。（井上委員）

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

引き続き、SNSでの学校の魅力の打ち出しを継続することと、県外の高校生や、部活等でなかなかオープンキャンパスに足を運ばない高校生や保護者の方に向けて、資料請求の中に同封する資料の工夫や、定期的にお送りするダイレクトメールの内容の工夫をする。

③ 特記事項

2026年度より新設開講した、美容科3年制課程の運用が開始となり、初年度10名が在籍している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・美容科3年制課程においても、3年間でゆっくり学びながらも美容師国家資格とその他自身が希望する検定が取れるというPRで、意欲の高い学生が集まるのではないかとと思われる。
卒業生を見ていると、授業を通しての技術習得がとても早い。実際に学んだ技術や知識を社会で使う事や、実践することが将来に繋がっている事を打ち出しても良いのではないかと。（井上委員）
- ・子どもの人口が減っているのが、動員確保に苦労しているのが課題である。来校者にどれだけ魅力を伝えられるかが大事になってくる。（高清水委員）
- ・今年度は、昨年度よりも多くの学生が入学している。次年度も、美容師国家資格だけを取得するのではなく、学生が美容の魅力を多く学べるよう、特別授業等を提供していきたい。（藤森副校長）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

今後も継続した法令遵守が求められる。

② 今後の改善方策

法令遵守に対する啓蒙を図り、コンプライアンスや個人情報など法令の正しい知識を教職員に伝えていく。

全体会議、定例会議にて定期的にハラスメント研修やコンプライアンス研修を行っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

ハラスメント研修は、役職者を対象に実施されているケースが大半である一方で、研修自体を実施していないサロンは少なくはない。近年は、役職や立場を問わず、一人ひとりが自身の価値観や言動を振り返り、適切なコミュニケーションや行動を実践することがより重要視されるようになっている。そのため、全社員を対象とした継続的な研修や意識啓発が必要ではないか。（井上委員）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

産学連携や地域貢献に関わるボランティアは行っているが、美容技術を提供できる範囲が定められているため、今後の依頼内容によっては対応の可否が伴ってくる。また、地域的に美容関係の学生ボランティアが少ない状況である。

② 今後の改善方策

関係企業や学校、施設、自治体との関わりを積極的にとり、新たな学生ボランティア活動を増やしていく。
また、教育活動やイベントに積極的に参加をする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ボランティアを通して、幅広い年齢層の方へ美容の技術を提供することで美容師になりたい気持ちが強くなると感じる。ヘアアレンジの需要が高く、多くの方が体験できる事で広報面でも学生数が増えるのではないかと。（石川委員）
- ・高校分野もボランティア活動は進路活動に繋がるため斡旋したいが、どのようなボランティア活動があるか知る必要がある。（高清水委員）
- ・美容師法により、首から上の技術は美容師免許を取得していなければ施術してはいけないため、施術できる範囲に制限がある。意欲が高い学生も多いので、制限がある中でも学生にボランティア活動を打ち出せるよう、学校側からも企業様にボランティアの提案をすることも検討していく。（藤森副校長）

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受け入れは行っているが、入学者の増加には至っていない状況。

② 今後の改善方策

オープンキャンパスやSNS等での留学生向けの受け入れ可能の打ち出しを強化し、説明会を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・東北地区においての留学生数は少なく、共立メンテナンスの寮の利用者も関東圏に比べて少ないのが現状である。留学生においては、寮契約中の金銭面のトラブルが数件あり対応に困る点があるが、留学生がいる寮を利用している日本の学生においては、留学生とのコミュニティが増え、言葉や違う文化を知ることができるので、東北地区も留学生数が増えれば大変良いと感じる。（高橋委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学生の多様化が進む中、一人ひとりの状況や特性に応じて、指導の目的や意図を丁寧に伝え、納得感を持って取り組めるような支援を継続して行うことが重要である。

その実現に向けて、保護者との連携をより一層強化し、家庭と学校が協力して学生を支える体制づくりに努めていきたい。あわせて、ICT 活用への理解を深め、業務改善や効率化を意識しながら、より質の高い教育・支援を目指す。また、地域企業や卒業生との協力・連携を積極的に進め、多様な視点や経験を活かした支援体制を構築することで、学生一人ひとりに寄り添い、継続的なサポートを実施していきたい。（藤森副校長）